

「お手紙」の読みを深める ワークシートの提案

加古 有子

1. 加古（2020）「語句に着目した『お手紙』の読解—動詞の考察を中心に—」の課題と本稿の目的

筆者は、第136回全国大学国語教育学会・茨城大会の研究発表⁽¹⁾をもとに、『解釈』⁽²⁾にて「語句に着目した『お手紙』の読解—動詞の考察を中心に—」を著した。この加古（2020）では、行動を表す品詞である「動詞」を中心に「お手紙」を読み解き、「お手紙」の語彙の特徴を明らかにした。動詞に注目したのは、「お手紙」の学習課題である音読劇⁽³⁾をするためには、学習者が主述の関係や会話主を捉え、場面ごとの人物の行動を理解しなければならないからである。

音読劇をするための、語句・表現に着目した読解—特に行動を表す動詞を中心とした読み—は、結果として、「お手紙」の教材としての難しさを抽出することにもつながった。以下に、「お手紙」の難しさの例を挙げる。

- ・会話を受ける「言う」「たずねる」が、「『～』と言いました」のように、格助詞「と」を伴わないので、会話主が分かりにくい。
- ・「来る」を使った文に、複文など、複雑な構造を持つ文がある。
- ・「もらう」と「くれる」のように、使い分けの難しい動詞がある。
- ・「来る」と「やって来る」、「見る」「見つける」「のぞく」のように、意味が似ていたり、意味の範囲が異なったりする動詞が混在している。

これらは、児童のつまづきやすい点であり、丁寧な指導が求められる点でもある。「お手紙」は、文が短く読みやすい教材だと思われる⁽⁴⁾が、決してそうではない。

また、語句・表現に着目した丹念な読みは、「お手紙」の主題を捉える上でも役に立った。以下、少々長くなるが、加古（2020）より引用する。

「お手紙」は、がまくんの孤独から生じる「ふしあわせ」な気持ちに寄り添ったかえるくんが、がまくんのために積極的に行動する友情の物語であることが明らかになったのである。

かえるくんの行動はユーモラスに描かれる⁽⁵⁾。がまくんに急いでお手紙を届けたいのに、配達をかたつむりくんに頼んでしまう。なかなかやって来ないかたつむりくんに気がして、がまくんに不審に思われてしまう。そして、自分がお手紙を書いたことを秘密にしていたのに、思わず内容まで話してしまう。

かえるくんの不器用な友情の示し方は、がまくんの心を強く打つ。もらう幸せしか考えていなかったがまくんは、もともと与える喜びを知っていたかえるくんによって、与える幸せに気付かされる。かえるくんからがまくんへの一方通行だった友情は、ふたりに通い合うものとなり、お手紙を待つという至福の時間を共有することができた⁽⁶⁾のである。

このように、語句に着目して「お手紙」を読むことで、さまざまなことが明らかになった。しかし、加古(2020)では、実際の授業でこれらの成果を活かすための具体的な手立てを示すことができなかった⁽⁷⁾。本稿では、研究の成果が実際の授業に資するものとなるよう、課題として残っていた具体的な手立てのひとつであるワークシートの提案をおこないたい。

2、読みを深めるワークシートの提案

語彙の定着と拡充を図るとともに、読解に役立ち音読劇に活きるワークシートの例を提案する。【解説】には、取り上げた語の意味⁽⁸⁾やそのワークシートに関連する「お手紙」の語彙的特徴⁽⁹⁾を記す。

〈ワークシート1〉

● () に○をつけましょう。

- ア) 「そりゃ、どういうわけ。」
かえるくんが { 言いました。()
 { たずねました。()
- イ) 「ああ。いちども。」
がまくんが { 言いました。()
 { たずねました。()
- ウ) えんぴつと紙を { 見ました。()
 { 見つけました。()
 { のぞきました。()
- エ) まどから外を { 見ました。()
 { 見つけました。()
 { のぞきました。()

【解答】

- ア) 両方に○ イ) 言いました ウ) 見ました、見つけました
エ) 見ました、のぞきました

【解説】

似ている言葉の意味の違いや意味の範囲を捉える問題である。

「言う」は、「お手紙」のなかで最も多く使われる動詞である。20回のうち19

回は、会話の前後で「〇〇（登場人物）が言いました」というように、地の文で使われる。「お手紙」が会話によって展開していく物語であることがわかる。会話を受ける動詞には、他に「たず（尋）ねる」3回がある。

「たずねる」は質問する時に使うので、会話のイントネーションは上昇調になる。しかし、「言う」は「たずねる」より意味範囲が広く、質問する時もそれ以外の時も使える。したがって、会話の内容や込められた気持ちによって言い方を変えなければならない。

達富（2019）は、『小学校国語教育相談室』⁽¹⁰⁾で、「言葉を見つめる語彙学習の機会にしたい」という意図のもと、「言いました」を他の表現で書き換える授業を提案・実践している。そして、教科書に掲載されている言語活動「だれが、何をするのか、どんなことを言うのかに気をつけて読み、音読げきをしましょう。」を「だれが、何をするのか、どんなことを言うのかを、他の表現に書き換えること」に変更しても、音読劇と同じ効果があるという考えを述べている。

実際に、作品を何度も読みながら「言いました」の仲間の言葉を集めていくうちに、子どもたちの集め方の質が異なり、知らない言葉を集めることから、使いたい言葉を集めることへと意識が変化したという。すなわち、初めは「きっぱりと言いました」「こっそり言いました」のように、「～言いました」という書き換えが多かったが、やがて「あきらめたようにつぶやきました」「じしんをもってなだめました」「ついにどなりました」などの表現も見られるようになったのである。達富（2019）は、この結果をふまえ、子どもたちは「場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像すること」ができたのではないかと考えている。具体的な問いの立て方として参考になる提案・実践である。

「見る」「見つける」「のぞ（覗）く」の主語は、全てかえるくんである。かえるくんの気持ちと動作を考えるうえでも意味の違いに着目させたい動詞である。「見つける」は「探しているものを見いだす。発見する」こと。「えんぴつと紙を見つけてきました」からは、急いで帰ったかえるくんの「手紙を書くこと」という目的が読み取れる。音読劇の時には探す素振りをした後に目的のものがそこにあるのに気づくという動きが必要になる。

「のぞく」は「物陰から見たりすき間を通して見たりする」こと。窓の外をしきりに気にするような動きや首を伸ばすような仕草を取り入れたい。「見る」は「目の働きによって物の存在や動きをとらえる」こと。かえるくんの動作は、窓の外を「見る」から「のぞく」へと変化する。かえるくんが「のぞい」ていても、がまくんは「かえるくん、どうして、きみ、ずっとまどの外を見ているの」と聞くことにも注目したい。がまくんは、窓に外にのぞき見るようなものがあるとは知らないからである。解答としては、「見ました」はウ）エ）にも使える。しかし、見ようとする目的や意味が「見つける」「のぞく」に比べ希薄になる。

話主ががまくんの場合は、「だれも、…くれたことがないんだ」「だれも、…くれなかったんだぜ」「…くれる人なんて、いるとは思えないよ」と否定的・悲観的な意味で使われる。一方、かえるくんが会話主の時は、「ひょっとして、だれかが、…くれるかもしれないだろう」「だれかが、…くれるかもしれないよ」と期待感のある言い方になる。しかも、「かもしれないだろう」から「かもしれないよ」と確実性の高い推量表現へと変化している。がまくんの気持ちを引き立てようとするかえるくんの気持ちが強くなっていくことがわかる。

また、「くれる」は「相手が自分または自分側の人にものを与える」意である。かえるくんが「だれかが、きみにお手紙をくれるかもしれない…」と述べる時、かえるくんは「きみ」（がまくん）を自分側と考えていることになる。自分が手紙を書いたのに、かえるくんは、がまくんに寄り添い、手紙を待つ心境になっているのである。

〈ワークシート 4〉

●——でむすびましょう。

(1) にているいみのことば

- | | | | |
|--------|---|---|--------|
| ア) すわる | ・ | ・ | りゆう |
| イ) わげ | ・ | ・ | もどる |
| ウ) 時 | ・ | ・ | こしを下ろす |
| エ) 帰る | ・ | ・ | 時間 |
| オ) 立つ | ・ | ・ | こしを上げる |

(2) はんたいのいみのことば

- | | | | |
|----------|---|---|--------|
| ア) ふしあわせ | ・ | ・ | お昼ねをする |
| イ) 空っぽ | ・ | ・ | きみ |
| ウ) おきる | ・ | ・ | しあわせ |
| エ) ぼく | ・ | ・ | かなしい |
| オ) うれしい | ・ | ・ | いっぱい |

【解答】

- (1) ア) こしを下ろす イ) りゆう ウ) 時間 エ) もどる オ) こしを上げる
 (2) ア) しあわせ イ) いっぱい ウ) お昼ねをする エ) きみ オ) かなしい

【解説】

「すわる」「こしを下ろす」は同義語である。この二語は、「お手紙」の主題を理解するうえで、非常に重要な場面で使われる。次の三つの文は、いずれも、がまくんの家玄関前で登場人物が座っているところを描写した文である。

- ①がまくんは、げんかんの前にすわっていました。

②ふたりとも、かなしい気分で、げんかんの前にこしを下ろしていました。

③ふたりとも、とてもしあわせな気もちで、そこにすわっていました。

①で座っているのは、がまくんひとりである。②の主語は「ふたりとも」に変化し、「かなしい気分で」という文言が加わる。しかし、「かなしい気分」は、①の時から存在する。それは、「きみ、かなしそうだね」というかえるくんの声掛けや、「今、一日のうちのかなしい時なんだ。…とてもふしあわせな気もちになるんだよ」というがまくんの言葉から読み取れる。つまり、もともと悲しい気分で座っていたがまくんに、②では、かえるくんが寄り添っていることがわかる。③は、②と主語、場所、述語が同じであるが、気持ちが正反対のものへと変化している。「お手紙」は、「かなしい気分」から「しあわせな気もち」へと反転する物語なのである。

授業では、これらの三つの文を比較させ、誰が、どのような気持ち・目的で座っているのかという変化や違いをしっかりと把握させたい（表1参照）。

〈表1〉玄関前で座っている時の気持ちと目的

	気持ち		目的	
	がまくん	かえるくん	がまくん	かえるくん
①	かなしい(ふしあわせ)		お手紙をまつ	
②	かなしい(ふしあわせ)		お手紙をまつ	がまくんに寄り添う
③	しあわせ		お手紙をまつ	

また、「すわる」「こしを下ろす」の応用として「立つ」「こしを上げる」の関係も理解させたい。「りゆう」「いっばい」も本文にはないが、日常的によく使われる言葉である。それぞれ「わけ」との類似、「空っぽ」との対比を押さえ、語彙の定着と拡充を図りたい。

なお、「空っぽ」は、「はくのゆうびんうけは、空っぽさ」というがまくんの会話で使われる。空っぽの郵便受けは、がまくんの心の空虚さの象徴でもある。音読劇では、がまくんの悲しげで拗ねたような口調を表現させたい。

〈ワークシート5〉

● 「しあわせ」と「ふしあわせ」についてかんがえましょう。

- (1) どんな時に「しあわせ」になりますか。どんな気持ちになりますか。
- (2) 「ふ」＋「しあわせ」でどんないみになりますか。
- (3) どんな時に「ふしあわせ」になりますか。どんな気持ちになりますか。

【解答】

- (1) どんな時：省略　どんな気持ち：うれしい　たのしい　よろこぶ　他
- (2) 「～ではない」といういみ。はんたいのいみ。しあわせではない。不幸。
- (3) どんな時：省略　どんな気持ち：かなしい　さびしい　空っぽ　あきあきする
いやな気持ち　他

【解説】

がまくんの「ふしあわせ」な気持ちと、ふたりの「しあわせ」な気持ちに共感するため、本文にある他の言葉で言い換えたり自身の体験を振り返ったりする。自身の体験からは本文にはない表現も導き出したい。「不自然」「不真面目」などの例も挙げ、「ふ」がつくことで、反対の意味になることを理解させる。

〈ワークシート6〉

● () にことばを入れましょう。

まだ　　もう

- ア) ぼく、() まっているの、あきあきしたよ。
- イ) かたつむりくんは、() やって来ません。
- ウ) いもうとが () 家に帰ってきました。
- エ) いもうとが () 家に帰ってきません。

【解答】

ア) もう　イ) まだ　ウ) もう　エ) まだ

【解説】

副詞の使い分けに関する問題である。それぞれの意味は、次の通りである。
 イ) エ) 「まだ(未だ)」は「《下に否定的表現を伴って》物事がその段階で実現されていないさま。いまだ(に)」という意味。
 ア) 「もう」は「現状が予想したり基準としたりした時期や程度を越えているという気持ちを表す。もはや」という意味である。「あきあきしたよ」を修飾する。
 ウ) 「もう」は「出来事を完了したものとする気持ちを表す。すでに」という意

味である。「帰ってきました」を修飾する。

〈ワークシート7〉

- () にことばを入れましょう。

です ます ません

- ア) まだ、ほかにもこたえはあり ()。
 イ) 足のけががなおらなくて、まだ歩け ()。
 ウ) うどんとラーメンなら、まだうどんのほうが好き ()。
 エ) この町に来て、まだ一年 ()。

- 「かたつむりくんは、まだやって来ません。」の「まだ」と同じ「まだ」はどれですか。上のア) イ) ウ) エ) の中からえらびましょう。

【解答】

ア) ます イ) ません ウ) です エ) です 同じ「まだ」: イ

【解説】

「まだ」の意味と使い方に関する問題である。それぞれの「まだ」の意味は次の通りである。

- ア) 物事が終わることなく、今に残っているさま。いまだに。
 イ) 〈ワークシート6〉のイ) エ) 参照。
 ウ) 十分ではないが、他と比べればいくらかでもまさっているさま。どちらかといえば。まだしも。
 エ) 《下に時間を表す語を伴って》時間がわずかしかたっていない(と感じる)さま。

〈ワークシート8〉

- 「ぼく、もう家に帰らなくっちゃ。」の「もう」と、同じ「もう」をえらびましょう。

- ア) そんなこと、もうわすれたよ。
 イ) 友だちも、もう来るでしょう。
 ウ) もう五分だけまとう。

【解答】 イ

【解説】

- 「もう」の意味と使い方に関する問題である。意味は、以下の通りである。
 ア) 〈ワークシート6〉のウ) と同じ。出来事を完了したもとする気持ちを表す。すでに。
 イ) 出来事が完了するまでの時間が小さいさま。ほどなく。

ウ) 現状は期待される状態に近いが、少量だがさらに必要であるさま。

〈ワークシート 9〉

● () にことばを入れましょう。

もうちょっと ひよとして きっと

ア) お手紙が来るのを、() まって見たらいいと思うな。

イ) ()、だれかが、
きみにお手紙をくれるかもしれないだろう。

ウ) () 来るよ。

エ) あの人は、() ぼくのことを知っているのかな。

オ) お手紙をもらったら、がまくんは () よろこぶよ。

カ) まだあかるいから、() 外であそぼうよ。

【解答】

ア) もうちょっと イ) ひよとして ウ) きっと エ) ひよとして
オ) きっと カ) もうちょっと

【解説】

副詞の使い分けに関する問題である。

「もうちょっと」の「もう」は〈ワークシート 8〉のウ) と同じで、「この上になお。さらに」という意味になる。「ちょっと」は「[口頭語で] 数量や時間が少ないさま。また、程度がわずかなさま。少し」という意味。したがって「もうちょっと」は「さらに少し。あとわずかだけ」という意味になる。「ひよとして」の「ひよと」は「不意であるさま。おもいがけないさま。ふと」という意味や「そうしたこともありうるという(期待を込めた) 気持ちを表す」副詞で、動詞「する」と複合して「ひよとしたら」「ひよとして」「ひよとすると」などの副詞を作る。「ひよとして」は「もしかして」という意味。「きっと」は「自分の推測が実現する可能性が高いという気持ちを表す」副詞である。

〈ワークシート 10〉

● () にことばを入れましょう。

ア) いちども (①) を (②) かい。

イ) ああ。いちども (③) を (④) 。

ウ) でも、(⑤) は、来やしないよ。

エ) きっと (⑥) は、来るよ。

オ) きみが (⑦) を (⑧) 。

【解答】

- ア) ①お手紙 ②もらったこと (が) ないの
 イ) ③お手紙 ④もらったこと (が) ないんだ ウ) ⑤お手紙 エ) ⑥お手紙
 オ) ⑦お手紙 ⑧出したのかい

【解説】

かえるくんとがまくんの会話で、省略されている言葉を補う問題である。音読劇に臨むためには、ふたりのやりとりを正確につかみ、言葉の背景にある、それぞれの心情をしっかりと理解することが必要である。前後の文脈などから想像して答えるよう促す。

3. 小学校学習指導要領改訂と「お手紙」の「単元名」「指導事項・言語活動例」

学会発表時の光村図書（平成 27 年度版）における「お手紙」の「単元名」「リード文」「指導事項・言語活動例」は、以下のとおりであった。なお、波線は筆者による（以下、同様）。

【単元名】音読げきをしよう

【リード文】だれが、何をするのか、どんなことを言うのかに気をつけて読み、音読げきをしましょう。

【指導事項・言語活動例】

B 書くこと（略）

C 読むことの指導事項

◎ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

○ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

・オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。

C 読むことの言語活動例

★イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

イ 言葉の特徴やきまり

・カ 文の中における主語と述語との関係に注意すること。

また、学習指導書には【言語活動（児童の活動目標）】として「音読劇をする」、【身につけたい力（指導目標）】として「◎場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることができる。」などが記されている。

音読劇をするためには、場面ごとの登場人物の行動をしっかりと読み取らなければならない。「誰が何をするのか」という主述の関係を捉えさせ、会話においては「誰が言っているのか」という会話主を理解させることが必要である。もちろん

ん、「どのように」「どのような気持ちで」するのも重要である。だからこそ、行動を表す品詞である「動詞」を中心に「お手紙」を読み解き、その成果を活かすためのワークシートを提案したのである。

令和2年度から全面的に実施されている新小学校学習指導要領では、国語科の目標を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理しなおし、国語科の内容においても「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」から構成している。それに伴い、「お手紙」の「単元名」「指導事項・言語活動例」は以下ようになった。

【単元名】 そうぞうしたことを、音読げきであらわそう

【指導事項・言語活動例】

【知識及び技能】

(1) 言葉の特徴や使い方

・オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。

◎ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

【思考力、判断力、表現力等】

C 読むことの指導事項

◎エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

○カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

C 読むことの言語活動例

☆イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。

国語科の目標と内容の捉えなおしに応じ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」から構成されているが、「お手紙」で求められる指導目標と言語活動、および学習活動の中身はほとんど同じである。

主な変更点は波線部である。「文の中における主語と述語との関係に注意すること」という文の成分に関する記述がなくなったが、「登場人物の行動を具体的に想像する」なかで、主述の関係に着目していくことに変わりはない。また、「語彙を豊かにすること」が加わることで、語句・表現に着目した教材研究と指導の重要性は増したと言える。加古(2020)の成果と本稿で提案したワークシートが、語彙の拡充・定着とともに「お手紙」の読解に活かされることを望む。

〔注〕

(1) 2019年6月2日、茨城大学にて発表。なお、この発表をはじめ、加古(2020)、本稿は、いずれも光村図書の小学校国語教科書2年下に掲載されている「お手紙」を研究対象としている。

(2) 『解釈』(第66巻 第5・6号 通巻714集 特集 国語教育) 解釈学会 2020年6

月1日発行。

- (3) 音読劇とは、学習の手引きによれば「声とかんたんな体のうごきとで、お話をあらわす」ことである。「音読劇」という言葉は、一般の国語辞典（広辞苑、明鏡国語辞典、新明解国語辞典）に載っていない。国語教育系の用語辞典にも見当たらない。「音読」「朗読」の定義を含め、「音読劇」と「朗読劇」の違いなど、考察しなければならない点もあるが、ここでは扱わない。
- (4) 光村図書の別冊指導書『小学校国語 語彙指導の方法〔指導事例編〕』（2005）や高舘（2018）に、そのような指摘が見られる。
- (5) 井上（1984）は、「食い違い」「違和感」「ちぐはぐ」（例えば、かたつむりくんの「まかせてくれよ」「すぐやるぜ」という確信に満ちた言葉は、実際の行動とかけ離れている）と「人の良さ」（かえるくんは、がまくんを喜ばせようとして内緒でお手紙を書いたのに、自ら秘密をばらしてしまう）という表現で「お手紙」のユーモアを説明している。
- (6) 本宮（1991）は、「お手紙」の主題は「自分あての手紙を求めるがまくんと親身になって友だちのために行動するかえるくんの友情の姿」であり、「二人が心を通い合わせ幸せな気持ちにひたることができた」場面を教材の中心ととらえている。
- (7) 2019年の研究発表時には、語彙の拡充と定着を図り、読みを深めるワークシートの例を提案したが、加古（2020）では、ページ数の制限上、取り上げることができなかった。
- (8) 語の意味に関する引用部分は、『明鏡国語辞典 第二版』による。語の意味の考察においては、『広辞苑 第七版』『新明解国語辞典 第七版』も参考にしている。
- (9) ワークシート提案のもととなった加古（2020）の成果も含む。
- (10) 光村図書が小学校の国語教育に関するさまざまな情報を届ける広報誌。4月、9月の年2回発行。光村図書のホームページでも読むことができる。

〔主な参考文献・ウェブサイト〕

- 井上敏夫（1984）「お手紙を待つ—お手紙（二年）『国語教材の読み方読ませ方』光村図書
- 甲斐陸朗監修／知多国語教育研究会著（1997）『個性を生かす国語教室ハンドブック（第3集）』明治図書
- 甲斐陸朗編（2002）『小学校国語 語彙指導の方法〔指導事例編〕』光村図書
- 甲斐陸朗編（2005）『小学校国語 語彙指導の方法〔指導事例編〕』光村図書
- 甲斐陸朗監修（2010）『小学新国語辞典 改訂版』光村教育図書
- 甲斐陸朗監修（2011）『小学校国語 語彙に着目した授業をつくる』光村図書
- 甲斐陸朗監修／松川利広編（2015）『小学校国語 語彙に着目した授業をつくる』

光村図書

- 甲斐睦朗ほか（2016）『こくご二下 赤とんぼ』光村図書
- 加古有子（2020）「語句に着目した『お手紙』の読解—動詞の考察を中心に—」『解釈66（第5・6号 714集 特集 国語教育）』解釈学会
- 北村保雄編（2010）『明鏡国語辞典 第二版』大修館書店
- 新藤廣子（1987）「言葉を大切に読みを深める指導 お手紙（小・二）」『実践国語研究別冊 範例国語科授業の実践記録6』明治図書
- 新村出編（2018）『広辞苑 第七版』岩波書店
- 高渕美千代（2018）「【お手紙】児童の実態を踏まえたわくわくする言語活動」『教育科学国語教育 824 一流教師がやっている国語科・教材研究の極意』明治図書
- 達富洋二（2019）「『 』と言いました。ばかりじゃつまらない—『お手紙』（二年）—」『小学校国語教育相談室 №98（通巻 №191）』光村図書
- 光村図書（2015）『小学校国語 学習指導書二下 赤とんぼ』光村図書
- 光村図書（2015）『小学校国語 学習指導書別冊二下 赤とんぼ』光村図書
- 本宮江利子（1991）「『お手紙』—前場面との対比・関連を明確にとらえて—」『小学校の国語科教育 38 物語文における中心場面を押さえた読み』明治図書
- 森重浩一（1988）「読みを深める『書く活動』の指導『お手紙』」『実践国語研究 80 黒板を生かす指導の工夫』明治図書
- 山田忠雄ほか編（2012）『新明解国語辞典 第七版』三省堂
- 光村図書出版ホームページ <https://www.mitsumura-tosho.co.jp/>

（かこ・ゆうこ 至学館大学准教授 本学大学院 1990 年修了 元非常勤講師）